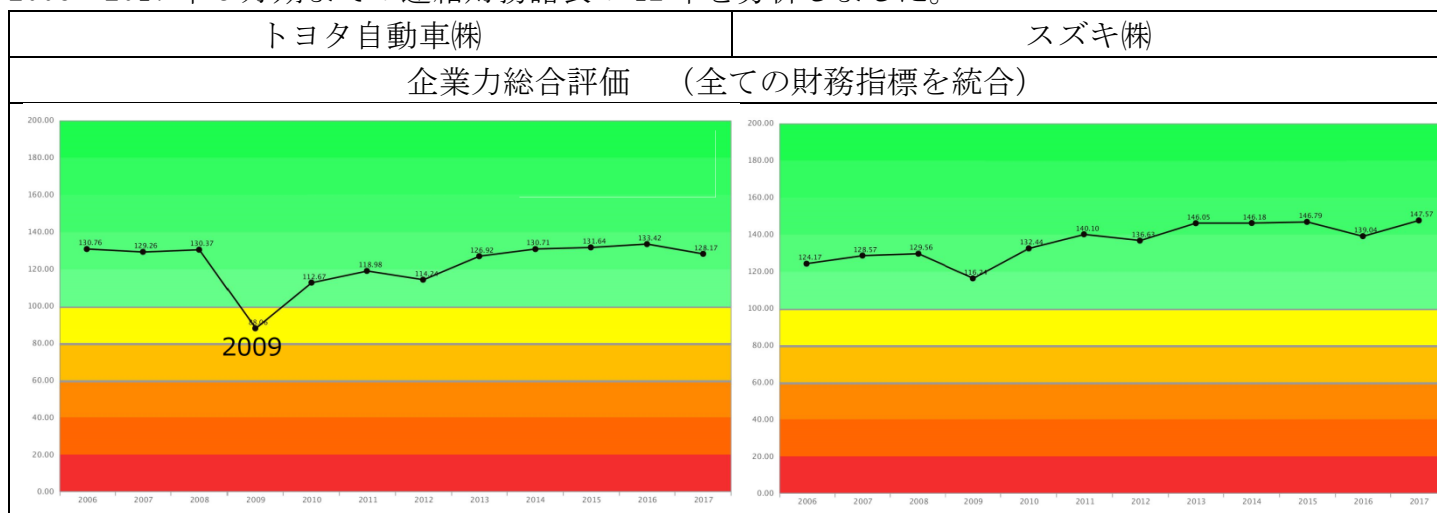
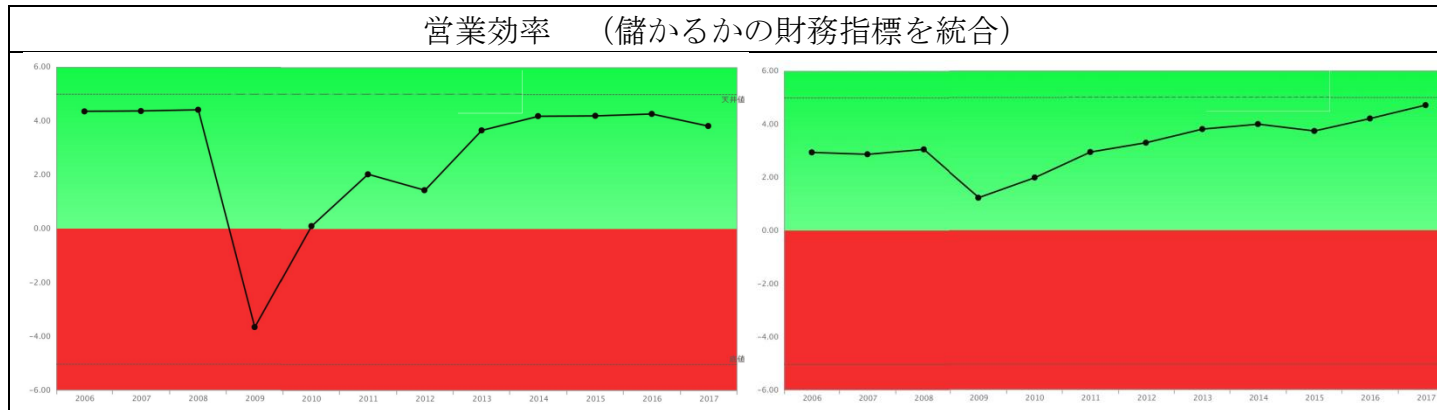


今回は記念すべき第 150 号です。日本の基幹産業である自動車の 2 社の 12 年比較をしました。トヨタ自動車株式会社に比べ規模が小さくて追いかける側のスズキ株式会社の戦い方を、数字を根拠にしたグラフで俯瞰することによって、多くの企業経営者の励みや考えて頂くきっかけになれば幸いです。

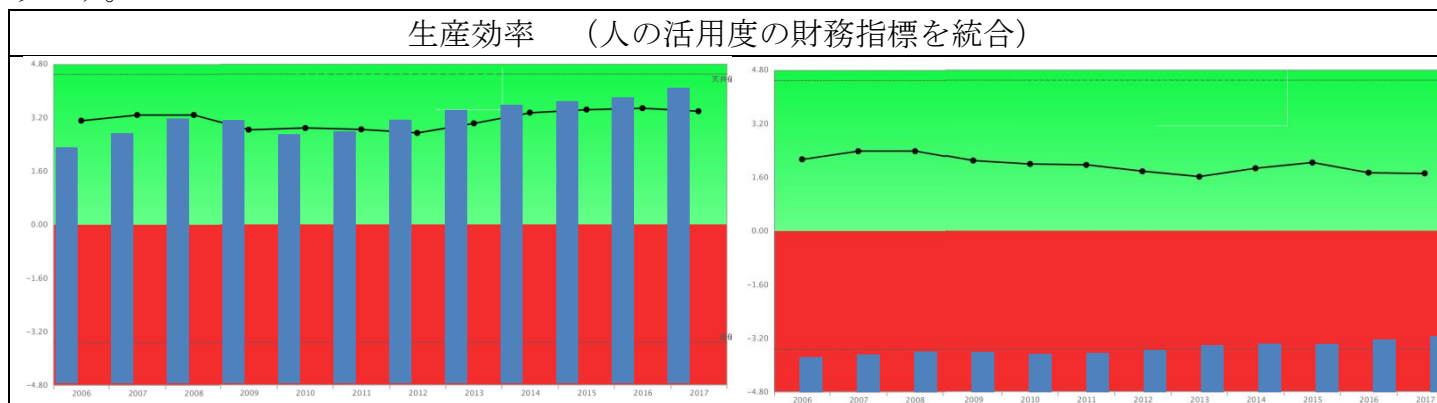
2006～2017 年 3 月期までの連結財務諸表の 12 年を分析しました。



企業力総合評価を 2 社観察すると、3 つのポイントが見えてきます。①リーマンショックのインパクトはトヨタ自動車(株)の方が大きく 2009 年黄信号領域であるが、スズキ(株)は軽微な凹みに留まる。②リーマンショックの回復はトヨタ自動車(株)が 4 年後の 2013 年当たりであるが、スズキ(株)は翌年 2010 年には回復した。③リーマンショック後、更に成長したと言えるのはスズキ(株)である。差異はどこにあるのか、下位の親指標を調べてみましょう。

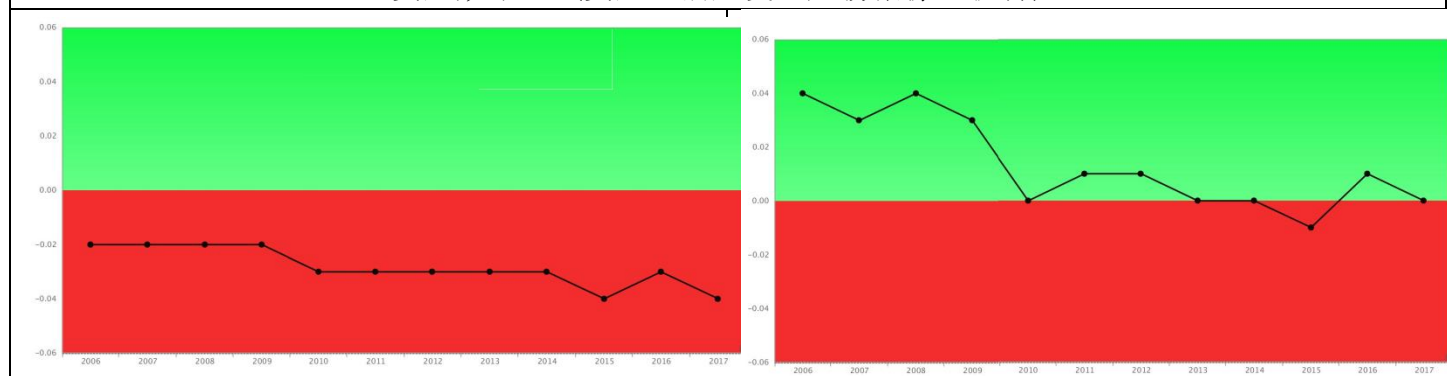


リーマンショックのインパクトも、それからの復活も、更なる成長も、営業効率に関係しているようです。

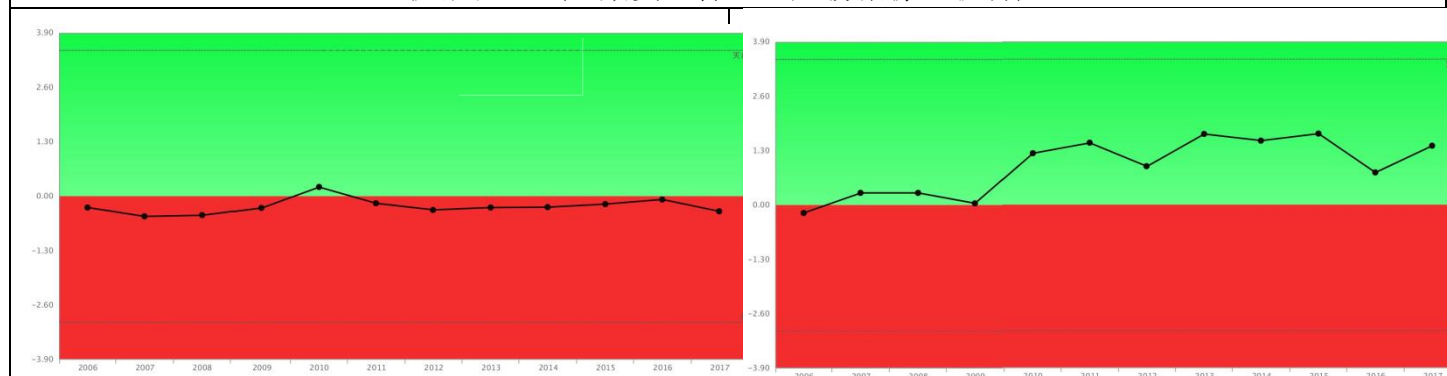


生産効率は、トヨタ自動車株が12年連続スズキ株を上回っています。従業員数（棒グラフ）は5倍強ほど差異があります。スズキ株のリーマンショック時の従業員数の減らなさが特徴的です。その後が見えていたのでしょうか。また、リーマンショック以降、両社とも従業員数は増加させていますが、トヨタ自動車株は生産効率改善、スズキ株は悪化しています。スズキ株は、生産効率を悪化させてまで雇い入れた従業員を今後どう活用していくのか。人事戦略が気になります。

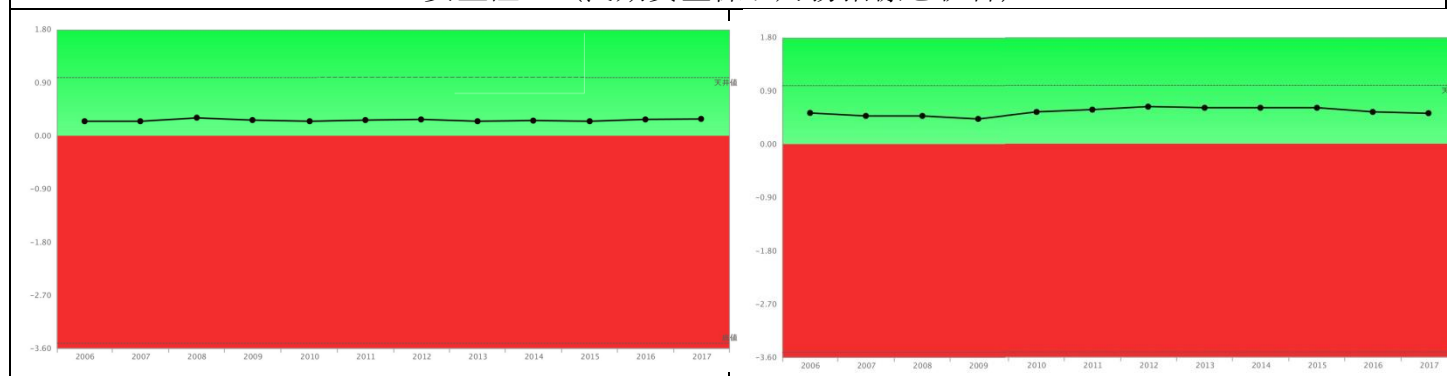
資産効率（資産の活用度の財務指標を統合）



流動性（短期資金繰りの財務指標を統合）



安全性（長期資金繰り財務指標を統合）



資産効率、流動性、安全性はいずれもスズキ株が勝っています。トヨタ自動車株が低い評価とはなっていますが、即ダメということでもありません。例えば流動性が悪いのは、ムダに現金預金を持たない、売上債権のサイトが厳しい、カンバン方式で棚卸資産が少ないなど流動資産を持たないことに理由があります。トヨタ自動車株であれば、国も銀行団も株主も見捨てないでしょう。でも、自分で頑張るスズキ株は、この3指標も右肩上がりを志向されるのでしょうか。

### まとめ

今回は、トヨタ自動車株、スズキ株の12年を俯瞰することによって、両社が何を考え、どう行動したかを観察しました。考察は少ないので、読者それぞれの立場で、ご自身の担当されている部署に係る指標を捉え、自社と比較し、考えるキッカケにしてください。

**お問い合わせ先** SPLENDID21 に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号 税理士法人 諸井会計

tel 0952-23-5106 fax 0952-22-2888 ☒ [info@moroi.co.jp](mailto:info@moroi.co.jp) URL <http://www.moroi.co.jp/>